

六甲カトリック教会 教会報

2022

9

No. 609



喜びの福音を多くの人に

主任司祭 英 隆一朗,s.j.

暑さが厳しい日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。教会では平和の集いとして、講演会と写真展を行いました。平和について改めて考えさせられました。

六甲教会の祈りには次のように記されています、「心にまかれた喜びの福音を多くの人に伝えることができますように」（第5段）。この段落もメッセージは明確ですね。福音という真の喜びをしっかりと味わって、それをまわりの人と分かち合っていくということです。

その前提として、まず自分の心にまかれている福音は何かを確かめてみましょう。自分にとって、福音（よき知らせ）は何でしょうか。クリスチャンとして生きる喜びはどこにあるのでしょうか。洗礼を受けて何がよかったのでしょうか。教会に来る喜びはどこにあるのでしょうか。暗い気持ちになる日もあるでしょうが、あえて福音の喜びを確認してみましょう。その上で、そのような喜びをまわりの人にどう伝えていけるかを工夫したらよいと思います。

小さな喜びの一つとして、9月から半年間、ニティン・コエリョという神学生が教会で働くことになりました。若い力が加わることで、うれしく思っています。彼には主に青少年とのかかわり・典礼の奉仕・PCやネットの活用などに従事してもらう予定です。

「多くの人に伝える」ために、現代ではネットの活用が欠かせません。神学生や若者に助けてもらいながら、この分野に力を入れていきたいです。なお、信徒会館の1階と2階の部屋はWiFiが使えるようにしてあります。パスワードを各部屋に貼り出してありますから、必要に応じて活用してください。

「多くの人に伝える」ため、教会に新しい人が入ってこられる工夫が必要だと思っています。特に若者が足を踏み入れられるオープンスペースの活用などを考えているところです。

春から手話ミサをしてみました。意義深いのでこれからも続けたいと思います。第1日曜日11時30分のミサです。ミサ前に少し皆で練習する機会を作ったり、ミサ後に手話を通して語らいの一時をもつつもりです。

子どもとともにささげるミサ（第4日曜日11:30）も9月以降続けるつもりです。子ども向けの歌や説教がありますから、親子連れでぜひご参加ください。

9月は日本の教会で、「すべてのいのちを守る月間」と定められています。夏の豪雨災害などを見ていると、喜ぶことができない負の側面が多々あります。その原因をしっかりと見つめ、大自然のいのちが守られる生き方がどのようなものか、どのような実践ができるのか、そのような問いの答えを探しながら、この1ヶ月を過ごしていきたいです。なお、「2022年 被造物を大切に世界祈願日 教皇メッセージ」が発表されていますので、ご参照ください。

※ カットは緑の地球と双葉（イエスのカリタス修道女会 HP より） 編集部註



「イエスの聖心」 奉献

イグナチオ年最終日にあたり、7月31日（日）の10時ミサでは、増井神父様の主司式で「イエスの聖心」の奉献がささげられました。司祭団は祭壇の前にひざまずき、奉献文がおごそかに読み上げられ、会衆もそれに唱和しました。イエズス会では2021年5月から「イグナチオ年」を定め祝ってきましたが、この7月31日（ロヨラの聖イグナチオの祝日に当たる）に閉幕しました。これを機会にイエズス会としての「イエスの聖心への奉献」が執り行われたのです。増井神父様は説教のなかで、イエズス会設立の原動力となった霊操を、



霊操本文から抜粋して次のように紹介されました。「霊操の目的はまず、乱れたあらゆる愛着を棄てることであり、その後、靈魂の助かりのために、自分の生活を整えることについて神のみ旨を探し、確かめることである」。

今回の奉献文（会衆にも配られた）はイエズス会アルトゥール・ソーサ総長の勧めで、1972年当時のペドロ・アルベ総長の奉献をとりあげています。それは「イグナチオが真に神への忠誠を誓ったように我々にもお恵みをお与え下さい」という趣旨に満ちています。

平和旬間行事

ことしの平和旬間は、8月6日（土）松浦・デ・ビスカルド篤子さんをお招きして講演会を開き、同時に期間中、ウクライナの写真家による「写真展」をイグナチオホールで開催しました。

ビスカルド篤子さんは大阪教区社会活動センター・シナピスで特に難民問題に力を入れて活動されています。

ビスカルド篤子さんは、聖堂にあつまった聴衆を前に「いつまでも戦後と呼べるように」という演題で、多岐にわたって、はつらつとお話をされました。とくに1年前のアフガニスタンのタリバンが政権奪還直後の、女医ロキアさんの難民救出のいきさつをモニターの画像を駆使しながら詳しく語られました。



QRコードで読み取れる松浦悟郎名古屋教区司教の「戦争を阻止する99の努力」など三つの講演録の紹介もありました。ビスカルド篤子さんのお話を聴くと、いかに難民問題が複雑で困難かが伝わり、そのなかで懸命に活動されている様子がよくわかりました。ロシアのウクライナ侵攻、米中のはざまの台湾問題など、いまにも世界の平和が崩れるかもしれないという昨今の国際情勢の中、私たちは真剣に平和を「平和旬間」だけに終わらせずにいつも考えていきたいものです。

講演終了後は「祈りの集い」に移り、教皇フランシスコの2022年復活メッセージを朗読者が読み上げ「キリストの平和の祈り」を皆で繰り返し唱えました。なお、夕方6時のミサを経て、簡単な茶話会を開く予定でしたが、コロナの感染状況の増加を鑑み残念ながら中止となりました。

写真展（8月5日～14日）

日本カトリック平和旬間中（8月6日～8月14日）、六甲教会では平和の集いに合わせて、写真展「アーティスティック ウクライナ」がイグナチオホールで開かれました。本写真展は、6月にカトリック・イエズス会センターなどの協力により上智大学で展示された作品群。本来美しいウクライナの街並み・風景がロシア侵攻により破壊された暴挙が現実であることを示しています。写真展はキーウ、ハルキウ、マリウポリなどの街並みと、写真家たちによる一連の作品群から構成されました。写真は、写真展の開催準備のために集まってくださった有志のみなさん。背景左側が芸術的作品群の一部。魂の叫びが聞こえそうという声も聞かれました。



インタビュー 増井 啓（ますい はじめ）神父さま



司祭館（教会3階）にほかの神父さまと一緒に起居されています。ときどきお見掛けしますが、平素のミサには出てこられません。ご復活やご降誕の際のミサは繰り返し行われますので、そんなときミサのローテーションに加わり司式されています。また、受洗希望者のための入門講座を担当されています。

本来は六甲学院の先生。中等部と高等部の宗教科と社会科で教えています。現在六甲学院で7年目になりましたが、それまで神奈川県栄光学園、福岡の泰星学園などで教鞭をとられていました。六甲学院ではカトリック研究会という会があり、中高合わせ40人ほどメンバーがいるそうで、将来頼もしい限りです。学校の勤務は朝早くの出勤などかなり多忙で、六甲教会の信徒とあまり触れ合う機会がないけれど、教会の皆さんはすべて上品で優しい方々だ、とおっしゃっています。出身は山口県下関市、両親が熱心な信徒で、出生と同時に受洗（霊名ペトロ）。1990年にイエズス会に入会、司祭叙階は1999年です。焼失した後の新装山口教会で与られました。神父になろうと思ったのは、大学生のとき黙想した折に神の深い「愛」を感じたからだそうです。趣味は山登り、草花が好きで山の植物を眺めていると心がなごむそうです。（聞き手 詫 洋一）

9月から「典礼手話講座」が始まります

7月と8月の第一日曜日の11時半ミサが手話付きで捧げられましたが、当面の間、継続されることになりました。今後は、少しでも多くの会衆が典礼の手話を理解し、ミサでの一致を表すことができれば、すばらしいことだと思います。

そこで、9月4日より毎月第一日曜日の手話付きミサ開始前の11時20分前後から、主聖堂で10分程度の「典礼手話講座」を行います。講師は、六甲教会信徒で手話通訳者として活躍されている磯部和子さんです。

手話は単なるジェスチャーではなく、ベトナム語・英語・スペイン語などと同じ「ひとつの言語」なので、きちんと会話ができるようになるためには、外国語を覚えるのと同様の（あるいはそれ以上の）時間と努力が必要ですが、まずは「アーメン」「また司祭とともに」「主の平和」など、典礼でよく使われる短い語句から教えていただきます。

みなさまのご参加をお待ちしています。（典礼部）

今月の聖人 ロベルト・ベラルミーノ（1542～1621）

前月号で紹介したピエール・ファールブルのあとを継ぐように現れた人物と言えます。生年は1542年でファールブルの没する4年前のこと。イエズス会には1560年に入会、ローマ学院で神学を修め、1570年に叙階。彼の講義録が「異端反駁信仰論争」というかたちでまとめられ名著とされています。トリエント公会議が終わったばかりの頃、宗教改革運動に対してカトリック教会のアイデンティティを守り強化することが大切でした。彼は1597年には2冊の公教要理を著し、これも広く読まれることになりました。いっぽうで1602年に南イタリアのカプアの司教に任命され、司牧者として教区のために力を尽くしました。枢機卿となり教皇の有力候補とも言われましたが、ローマにもどり、教皇パウロ5世の特別顧問として活躍しました。1621年9月17日に永眠、1930年6月に列聖され翌年の9月には教会博士の称号を得ました。彼は霊性に関するさまざまな著作を著し、霊操の実りを要約しました。また、彼は鋭敏な学者ではありませんでしたが、その言動は決して攻撃的ではなく、カトリックの教えを理性と明快な論理で貫きました。（詫 洋一記）



私の好きな聖書の言葉（第4回）



「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」
（ルカ 1:38）

人生はまなならぬ。善と悪の混沌とした世に生きている。不思議なこと理解できぬこともある。受胎告知はマリアにとって困惑したに違いないが「わたしは主のはしため」と云い受け入れた。神への信頼があった。私にはマリアのような信頼が足りない。ヨブが悟ったように（あなたは全能であり御旨の成就を妨げることにはできないと悟りました。ヨブ 42:2）、イエスの最後の叫び（父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。ルカ 23:46）のように神に信頼して生きたい。 山本順子

お知らせいろいろ

◇ 社会活動部より

学習会開催（8月号参照）

9月18日（日） 13:00 ～ イグナチオホール

講師：下川雅嗣神父（イエズス会 上智大学）

テーマ： 「教会の社会的次元」 ＝ 貧しい人から学び、貧しい人とともに歩む恵み＝
教会はなぜ社会問題と関わるのか、体験をもとに語られます。詳しくはちらしをご覧ください。

手芸部 9月7日（水） 第1、第2会議室 10時～

炊き出し 今月は他のグループが参加されるのでお休みです。

◇ 施設管理部 園芸係より感謝の辞

厳しい猛暑の中、花壇のお水まきにご協力下さり有り難うございました。皆様のおかげで花々は夏枯れすることなく元気に育っています。園芸の作業に興味のある方、経験は問いません。事務所までご連絡下さい。



◇ 典礼部音楽チームより ギター奏者募集

ギターで子供のミサの聖歌伴奏をしてみませんか？簡単なコードの弾ける方、またこれから弾いてみたい方も歓迎。指導もいたします。「子供と共に捧げるミサ」は毎月第四日曜日、11時半からです。興味のある方はお気軽に教会事務所まで。

祈りと音楽の集い (バッハとイタリア) =予告=

9月25日(日) 14時30分開演

演奏

ジャン・フィリップ・メルカールトさん(オルガニスト)

事前申し込み制 申込書(チラシに印刷)があります。

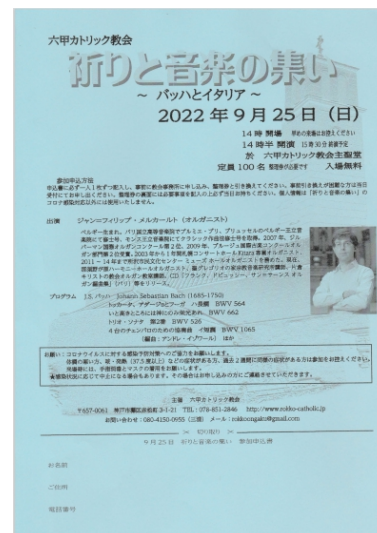
事務所で申込み、整理券を受け取って下さい。

(必要事項記入の上当日持参)

曲目 J・S・バッハ トッカータ・アダージョとフーガ

BWV564 ほか。

詳しくはチラシ、ポスター参照。



壮年会・婦人会主催 教会遠足

恒例の教会遠足を行います。皆様と楽しいひと時を過ごしたいと存じます。

近江八幡に向かい、水郷を巡りながら近江牛の昼食をお召し上がりいただきます。また、滋賀県内の教会を伺い、交流できればと予定しています。

日時 2022年10月22日(土曜日) 集合9時(予定)

行程 カトリック六甲教会 9:00 出発===近郊教会との交

流・ミサ===近江八幡水郷めぐり(船上にて昼食)===近江八幡市内散策

===カトリック六甲教会 17:30 解散(予定)

参加費 おひとり 7,500円 チラシにてお申込み下さい。



三日月会総会のお知らせ

9月19日(月・祝) 13:00~15:30

第一部 ミサ(主聖堂)

第二部 総会 ご挨拶 報告事項 意見交換(イグナチオホール)

3年ぶりの総会開催です。コロナの感染状況により中止もあり得ますのでご了承下さい。



教会学校デイキャンプ

8月12日(金) 教会学校は夏恒例のキャンプを行いました。2年ぶりに開催するキャンプであり、当初は姫路の淳心之家に2泊3日の予定でしたが、新型コロナウイルス第7波の影響により、子どもたち及びリーダーたちの安全を確保するため、教会・生徒研修所にてデイキャンプを開催することにしました。主にオリエンテーリングというかたちで朝から夕方までミニゲームで楽しみ、また、夜はイグナチオホールで

スタンプ大会、その後は花火もして子どもたちにとって濃密な一日になったと思います。直前にデイキャンプという形になってしまいましたが、普段の教会学校ではあまり関わりのない他学年のお友だちと親睦を深める良い機会になったと感じています。子どもたちもリーダーたちも夏の楽しい思い出の一つとして記憶に残るものであれば幸いです。最後にこのキャンプを行うにあたりご協力頂いた英神父様に感謝の意を伝えたいと思います。 キャンプチーフリーダー 小田康平

趣味百景

カメラ片手に 18 年

田 嶋 紀 雄

コニカミノルタを 65 歳で退職してから写真を撮り始め、カメラ片手に 18 年が経った。普段は六甲学院 15 期生のホームページに写真を撮ってきた都度投稿して、皆さんに楽しんで貰っている。兵庫倶楽部の写友会に所属して風景写真を主に年に 1 回の写真展と大学 OB 会の「写真の早慶戦」の早慶写真展に出展してきた。六甲学院 15 期生は中村神父も同級生だ。4 年前に亡くなった同期の伊藤協治君が兵庫県写真作家協会の公募展に何度か入賞して会員に推挙された。私も何か区切りを付けられたら良いかと、昨年から公募展にトライしている。彼はクラブに所属して先生について活動してきたが、私は先生もなく独自に活動しているし、コンテストは初めての試みなので、撮影場所の選択やタイミングなど難しい問題が出てきた。コンテスト用の写真には通常の風景の上に如何に情感を加えるかがポイントになる。主役に加え山、川、水、空、夕焼け、霧、虫、建物、人、などを背景、脇役として上手く配し、主役とのコラボで如何に**情感**を醸し出すかである。最近ではカメラが上等になって誰でもきれいな写真は撮れるので、創意工夫をして如何に**物語性**を出すかと言う事である。始めてみるとなかなか奥深く難しいものであるが、80 歳を過ぎて、高い目標をもって活動することも生きがいに繋がると楽しんでいる。今まで飛び回って撮影をしていたが段々身体が言う事を聞かなくなって行動範囲も限られてくるが、体の続く限り楽しくやろうと思っている。



写真（左下）は作品のひとつ「蓮と雀」

教会のご近所訪問「PLUS FRESH」=プラス フレッシュ=

教会を出て信号を渡り、援助修道会の並びの道路を東へ。ケーキを売っている「ショップ」の建物を右に曲がるとすぐ石造りの門柱が現れます。民家をリフォームしたカフェ「PLUS FRESH」の玄関へ。履物は脱がずに、上り框を一段上がって席に着きます。和室、洋室風それぞれの部屋と庭に面した縁側席もあり、お天気がよければ玄関前のガーデン席も使えます。レモンカスタードタルトなどオリジナルのケーキとコーヒーで一息。まっ白いコーヒーカップは取っ手がくると裏返ったような斬新なデザイン。ベルギーの作家の作品だそうです。カレー、パ



スタ、リゾット、ボルシチなどランチメニューも豊富ですが、もともとは店主の宮澤和貴さんが開いたケーキショップがはじまり。2009 年に今の場所に移ってきました。夫の明英さんはプロのカメラマン、壁面を飾る大きなパネルに入った写真が目を引きま。営業日は火・水と土・日曜日。カフェタイムは 9:30～17:00 ランチタイムは 11:30～14:00 モーニングタイムは 9:30～11:00 となっています。道路脇のケーキショップ（写真上）でお土産のお買い物も。

灘区山田町 1-1-22 TEL 078-845-3779

イグナチオ・ロヨラの息吹〔4〕

イエズス会の創立者としての歩み

中村健三神父

イエズスの福音に従って貧しく清く隠れて、人々の救いのために惜しみなく働きたいというイグナチオの希求は、まずはエルサレムに行くことに強く結ばれていた。彼は、このモンマルトルの誓いを果たすべく努力を重ね、同志たちは1537年3月27日にパウロ三世に謁見し、聖地巡礼の正式な許可を得たばかりか、旅費・施しまで受けた。しかしトルコとの戦争のうわさで聖地行きの船は一隻も出なかったため、彼は11月18日に同教皇に自分たちを奉獻し、命令のままに一切を委ねた。ここに正式に「イエズスのソチウス・友である仲間たち」が始まった。しかし従順の誓願をどうするのか、ベネディクト会・シトー会・フランシスコ会・ドミニコ会という、役割も枠組も既に固く決定された行動規定があるところに、全く新しい修道会を創立するつもりなのか、誰を総会長に選ぶのか等、教会の内外を問わず、頑強な反対も妨げも多大であったにも関わらず、仲間たちは全員一致の原則を貫きゆっくり議論を尽くし、心して神のみ旨を識別する道を選んだ。こうして1540年9月27日に、パウロ三世教皇の教書によって創立が宣言された。ここにイエズスの名を戴く新しい修道会はイグナチオの指導のもと、宣教・説教・要理指導などの言葉による奉仕、愛徳による福音的な奉仕、イエスと共に貧しく祈りに満ちた生活による奉仕に献身し、また教皇による派遣にすべてを差し置いて従うことが求められた。固有の修道服を持たず、聖務（教会の祈り）を毎日共同で唱和する義務を持たない、大きな物議を巻き起こしながら一つの新しい修道会が誕生した。



1541年に初代総長に選ばれたロヨラのイグナチオは数年の後、ローマの「道の聖母の小聖堂」に隣り合った家に仲間と一緒に住んだ。行動の人であった彼にとって、一つの若い大きな団体の長であることは、絶えざる克己と犠牲の連続だったと思われるが、根本的な綱要を始めイエズス会の精神を明確にする会憲を著し次代の飛躍に備えた。売春婦を救うためにサンタ・マリアの家を開設し、また哲学と神学を学ぶローマ学院・コレジオ・ロマーナを設立した。それは今日のグレゴリアン大学の前身である。彼は独り病苦・胆嚢と肝臓との重い結石に耐えながら、1556年7月31日の朝の6時前に主イエスの許に静かに旅立ち、時に65歳であった。

「私は信じます。生きる者の地で私は主の恵みを見ることを。主を待ち望め、強く雄々しくあれ。主を待ち望め」。

※肖像画は教皇パウロ三世（ルネサンス時代の画家ティツィアーノ作）

【2022 年 9 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				すべてのいのちを守るための月間(～10/4)	初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 ◎東灘南	
4	5	6	7	8	9	10
年間第 23 主日 被造物を大切に する世界祈願日 地区役員会				聖マリアの誕生	◎東灘北 2・芦屋	教会学校始業式
11	12	13	14	15	16	17
年間第 24 主日 典礼奉仕者の集い 13:00			十字架称賛		◎東灘北 1	
18	19	20	21	22	23	24
年間第 25 主日 社会活動部学習会	三日月会 総会		聖マタイ使徒福音記者	◎定期清掃	病者・障害者ミサ (カテドラル・ライブ配信の予定) 教会受付休み	
25	26	27	28	29	30	
年間第 26 主日 世界難民移住移動者の日 祈りと音楽の集い			聖トマス西と 15 殉教者	聖ミカエル、ガブリエル、ラファエル 大天使	◎灘北 1・北三田	

◎は掃除当番地区です。

【編集後記】

コロナが完全に終息すれば、どんなにうれしいことでしょう。今月号には各方面からのお知らせや報告、お誘いが数多く集まりました。出向いていく教会を目指して、いまさかんに論議が深まっています。開かれた教会、オープンスペース構想、SNS の発信充実などです。10 月号で大要がお知らせできると思います。二学期になって文化祭や運動会準備に忙しいわくわく感、そんな活気が感じられます。「余」

次回 10 月号の発行は 10 月 1 日（土）です。原稿は毎月 15 日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部 http://www.rokko-catholic.jp	六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 E メール renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 英隆一朗 編 集 広 報 部
--	---